

川上宏奨学金受給研究結果報告書

1. 論文タイトル

日本と中国の言語表現の違い

ー留学経験者のインタビュー調査とドラマの比較分析からー

2. 研究背景と目的

異文化間コミュニケーションの過程においては、異なる国の人との言語が異なるため、円滑なコミュニケーションを図ることが難しいと考えられる。相手国の言語を学んでも、お互いの言語表現の違いが存在することによって、違和感を覚え、誤解が生じる可能性があるだろう。そのため、相手国の言語を学ぶことだけではなく、両国の文化の違いを理解することも重要である。そこで、本研究は留学経験者へのインタビュー調査とリメイクドラマの比較から、同じ漢字文化を持つ日本と中国の言語表現の違いを、主に謝罪、依頼、褒める、慰めるという四つの場面において検討した。

3. 研究方法

調査方法として、インタビュー調査とドラマの比較分析を実施した。インタビュー調査では、中国留学経験者の日本人3名と日本留学経験者の中国人3名を対象とし、留学する際に実際に感じた日本語と中国語の違いや文化の違い、非言語表現の違い、または日本と中国のメディアコンテンツで感じた違いなどについて質問した。ドラマの比較分析では、日本のドラマ『ドラゴン桜』とそれに対応する中国リメイク版ドラマ『鳴龍少年』を対象とし、それぞれ似たような謝罪場面、依頼場面、褒める場面、慰める場面を中心に、登場人物のセリフや行動などの変化から、日本と中国の言語表現の違いなどについて分析した。

4. 研究結果

結果として、漢字文化が根付いた中国語と日本語においても、さまざまな側面から中国と日本の言語表現の違いが存在することが分かった。まず、謝罪表現に関して、インタビュー調査とドラマの比較分析では日本人は中国人より利用頻度が高く、その程度を相手によって使い分けしており、日本語の謝罪表現は中国語の謝罪表現より多様であると分かった。次に、依頼表現についても、2つの調査から日本語は中国語より丁寧であり、丁寧さは相手との親疎関係や上下関係によって異なるが、中国人の言語表現がより直接的であり、依頼表現は相手によっても丁寧さがそれほど左右されないと検証された。また、褒める場面において、2つの調査では日本人と中国人は両方とも褒め言葉をすぐ受け止める傾向があるが、中国人は日本人より相手をよく褒める傾向が見られた。そして、慰める表現に関しては、インタビュー調査からは日本人は中国人より相手を慰める

際に共感を示すことが多いと分かった。しかし、ドラマの比較分析からは、日本人は中国人と同じく共感を示さないほうが多いという結果を得た。最後に、全体からは、日本人は中国人より相手に迷惑をかけないことを重視し、言語表現に相手への「配慮」が含まれていることが示唆された。特に依頼する際に日本人は中国人より相手への「配慮」を含め、相手の意見を尋ねる場合が多いことが見られた。

5. 謝辞

本研究の遂行にあたり、奨学金を給付してくださった故川上宏先生とご家族、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。奨学金をいただけたおかげで、研究にかかる書籍代や資料のコピー代、インタビュー協力者への謝礼費などを案じることなく、研究に励むことができました。ご支援いただき、誠にありがとうございました。